

次期長野県食と農業農村振興計画骨子(案)に対する地区部会及び
関係団体等からの意見・提言

基本方向		意見・提言	地域
I 次代へつなぐ信州農業	1 次代を担う経営体の育成と人材の確保・育成	経営感覚に優れた担い手の育成を	佐久
		稼げる農業を前面に出すべき	佐久
		農家子弟に対する支援が必要	佐久、長野
		技能実習生を始めとする外国人材の活用を検討すべき	佐久、北信
		円滑な経営継承のために施設・機械再整備への支援が必要	佐久
		定年帰農者や子育て中の母親など多様な者の受け入体制の整備を	上田
		兼業農家等の中小規模の農業者からの視点も必要	上田、松本、長野
		県外や異業種からの就農者の確保が重要	上田
		新規就農者や定年帰農者が耕作放棄地等を活用する仕組み作りが必要	諏訪
		直売所の維持の観点からも担い手の確保は必要	諏訪
		Iターン者等、地域で活躍している事例を情報発信してもらいたい	諏訪
		集落営農組織の体制強化を推進する必要がある	上伊那
		安定的に従業員を雇用できる中核的経営体の確保が必要	上伊那
		女性を担い手として位置付けた取組を	南信州
		住居確保から栽培技術、経営安定まで一体的な新規就農者支援を	南信州、北信
		親子間など農家子弟に円滑な継承を促進する支援が必要	南信州
		中山間地域では容易に農地集積ができない状況	木曾
		高齢の生産者がより長い期間営農を継続できる支援体制が必要	松本
		定年帰農者や兼業農家が経営を開始するには支援策が必要	松本
		人口減少とそれに伴う農業者の減少を検討すべき	松本
		就農者を求めている品目等を地域ごとに明示し、重点的な取組を	北アルプス
		就農者の労力負担が軽減される技術を開発してもらいたい	北アルプス
		就農者の誘致に当たっては、モデル的な経営収支を示す必要がある	長野、北信
集落営農組織を中心的に担う意欲ある者の育成を	長野		
農家子弟が継ぎたくなるような、儲けが出る経営モデルを示してもらいたい	北信		

基本方向		意見・提言	意見・提言者
I 次代へつなぐ信州農業	1 次代を担う経営体の育成と人材の確保・育成	人材確保の観点から、農業によって収入を得られることをアピールし、定年帰農者やIターンやUターンを増やすことが必要	関係団体等
		養魚場の代替わりが進み、後継者によって持続的経営ができるようにするべき	関係団体等
		農業が儲かる産業となり、多くの若者が就労できるようにすべき	関係団体等
		多様な働き方が提供され、就労を通じた社会参加が可能となしてほしい	関係団体等
		中核となる大規模農家と、中小農家が併存し生産を支えるべき	関係団体等
		繁忙期での労働力確保に困らないようになるべき	関係団体等
		確実に所得の確保できる営農設計を提案し、若い担い手を育成する支援策が必要	関係団体等
		技量がある里親農家をもっと増えるようにしてほしい	関係団体等
		「果樹をやるなら南信州」など特化した人材誘致が重要	市町村
		花卉栽培の専業農家が増えるようにしてほしい	関係団体等
		若手新規就農者、Iターン農業者が必ず農業後継者グループに入るようになればよい	関係団体等
		農業、養蜂、地域を守る会等の担い手が増えてほしい	関係団体等
		担い手の確保に向けた取組の強化が必要	関係団体等
		農業法人等が規模拡大し、従業員を大量に雇用し、農業後継者として育てる。また、農地付きでのれん分けする	関係団体等
		中山間地では兼業でもいので農地農業を守る後継者が必要	関係団体等
		研修の充実などによる若手農業者の質の向上が必要	市町村
		認定農業者への認定促進施策やメリットの明確化により、地域の認定農業者がたくさんになってほしい	市町村
		土地をまとめ水稲組合として若い人たちが農業に従事しやすくできないか	関係団体等
		地域農地を守る為に担い手の参入確保が必要	関係団体等
		中山間地では、近い将来、機械があっても担い手としてのオペレーターが不足することが懸念されている。建設業者を対象にしたオペレーター部会の設置検討や、機械を使いこなせる(乗りこなせる)40～50歳代のオペレーター要請が急務	市町村
女性が元気で活躍している将来になってほしい	関係団体等		
県づくりの担い手教育が重要	関係団体等		

基本方向	意見・提言	地域
I 次 代 へ つ な ぐ 信 州 農 業	2 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産 水利施設の長寿命化に加え、基盤整備にも一層取り組んでもらいたい	佐久
	流通業者と連携し、直売所間の広域的な流通を進められないか	上田
	農産物の安全安心に対する消費者からの要望に応えられる体制を	諏訪
	消費者ニーズを的確に捉え、農家を指導する専門機関が必要	上伊那
	環境にやさしい農産物認証制度の普及拡大	上伊那
	野菜は既存品種の良品質で安価なものが求められているのではないか	上伊那
	花きは新しい品種が好まれるようである	上伊那
	価格競争をするのではなく、高品質なものを生産することが大切	上伊那
	国はGAPより有機JASを重視しているように見えるが、県としてはどのように捉えているのか	上伊那
	東京オリ・パラリンピックを契機とした国際水準GAP認証の取得推進	上伊那
	基幹施設の老朽化が顕著であり、行政からの支援が不可欠	南信州
	果樹の中でも梨の面積減少が大きく、オリジナル品種の育成に期待	南信州
	急に経営を中止した樹園地を一時的に管理する仕組みが必要	南信州
	市田柿の乾燥までの加工機械・技術の早期確立を	南信州
	鳥獣被害対策についても検討をお願いする	南信州
	オリジナル品種等の知的財産の保護する対策をとってもらいたい	松本
	農作物は価格変動が大きいので、担い手対策の面からも価格安定対策をお願いする	松本
	野菜の導入や果樹の改植への支援が必要である	松本
	水稻の平成30年問題への対応が必要	松本
	温暖化等気象変動に対応した技術開発に取り組んでもらいたい	松本
	団塊の世代が高齢化した後の労働力確保についても検討すべき	松本
	水稻栽培と複合化が可能な品目の振興が重要	北アルプス、長野
	「風さやか」に続く水稻新品種の育成を	北アルプス
	これからはGAP認証の取得が当たり前になるのではないか	長野
	業務用米の推進とブランド化が並行してできるのか懸念がある	北信
	稼ぐだけでなく、生きがいとしての農業を進めることも重要	北信
	市場から求められる「顔の見える販売」の戦略を示す必要がある	北信
	産地の維持・存続を推進するための施策も示してもらいたい	北信
きのご経営の管理能力向上に向けた対策を示してもらいたい	北信	

基本方向	意見・提言	意見・提言者
I 次 代 へ つ な ぐ 信 州 農 業	2 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産 アユ、イワナ、ヤマメ、ウグイなどを広域的に管理できるようになり、現在おきている濁りやカワウ、コクチバスの問題に対応できる体制になってほしい	関係団体等
	千曲川などの水が清浄な状態に保たれ、養魚用水として利用でき、おいしい魚が生産できてほしい	関係団体等
	寒さと暑さの拡大する中、この気候に合った技術開発や機能性食品向けの品種育成を行うべき	関係団体等
	多様な者が参加し用排水路や農道、ため池など農業施設が良好に維持管理され、地域の農業を支えることが必要	市町村
	ワイン用ぶどうの栽培が拡大され、上田地域がワインの一大産地になってほしい	市町村
	土地改良区が安定的に運営できる環境が必要	関係団体等
	油類流出などの水質汚濁事故の発生防止と発生時の迅速で充実した県の危機管理体制が必要	関係団体等
	カワウやサギなどの野生有害鳥獣による魚の被害がない水辺環境(現状:魚の食害が甚大)になってほしい	関係団体等
	農家は生産物の安全性や質を高めていく必要がある	市町村
	酪農経営は高齢化、施設老朽化が課題、特に環境問題(臭気対策)に力をい入れるべき	関係団体等
	遊休荒廃地がなく、地域全体で農地を適正に管理される体制とすべき	関係団体等
	農業者が地域や農業に誇りを持ち、儲かる農業の実現するよう願う	関係団体等
	大規模酪農家が増えてほしい	生産者
	もっと簡単にほしい農地が手に入るようになってほしい	生産者
	農畜連携をもっと進めるべき	生産者
	農振農用地の除外等の事務処理の簡素化及び期間の短縮に向けた取組を進めるべき	市町村
	水稻農家が、補助金がなくなっても儲かり、農業を続けられるようになってほしい	関係団体等
	他産業(会社員)と同等の所得のある農業、他産業(会社員)並みに休日を得られる農業になってほしい	市町村
	農家や農業参入企業の柔軟な発想や経営を妨げない農村地域に	市町村
	農業が産業として成り立ってほしい	市町村
	多種多様な作物に対応できる気候特性を活かした生産振興の検討を	市町村
	獣害で耕作放棄地になっている農地を、地域の人が協力して栽培するようになってほしい	関係団体等
	水稻が園芸作物に代わっていくように	関係団体等
	農業が県民の財産として捉えるべき	関係団体等
消費者の農業に対する理解が深まってほしい(農薬の安全性と必要性等が理解される)	関係団体等	
葉摘みしなくても色が付く品種、色が悪くても味がよい品種等の開発が進むことが重要	関係団体等	
野菜団地、りんご団地、ぶどう団地、花き団地など、作物による団地化が進めるべき	関係団体等	

基本方向		意見・提言	地域
I 次代へつなぐ信州農業	3 需要を創出するマーケティング	飲食店や宿泊施設等において、地元農産物が活用しやすい仕組みづくりが必要	佐久
		県産農畜産物のPR強化を	佐久
		インターネットを通じた販売についても検討してもらいたい	佐久
		観光と連携した産地作りへの取組が必要	上田、上伊那、南信州
		価格変動対策を含めた、6次産業化の推進による需要の創出	上田、松本
		1つの品目に特化するのではなく、多様性のある生産体制が重要	上田
		高価なブランド品だけではなく、地元の間人が気軽に食べられるものを	上田
		新たな品目に取り組むとしても、販路確保等が必要である	諏訪
		消費者と生産者をつなぐ場を作ってもらいたい	上伊那
		グリーンツーリズムの延長として、インバウンドや輸出の検討を	南信州
		食品産業と連携したマーケティングの推進	南信州
		オリジナル品種の売り出し方など他県の手法を勉強すべき(例:風さやか)	松本
		市場流通の基本としつつ、地元への直販の比率を挙げる取組を	松本
		直販等により消費者から直接評価してもらうことが必要	松本
		農産物加工技術の向上や農産物の魅力を伝える取組を	北アルプス
		6次産業化事業者のフォローアップが必要	北アルプス
		米だけではなく、果実を含めた農産物輸出に取り組んでももらいたい	北アルプス
		農家民宿(ペンション)をアンテナショップとして位置付け、取組を進めてもらいたい	北アルプス
		「健康」をキーワードとしたPRができるのではないかと	長野
		ワインと果物など抱き合わせでPRできれば農産物のブランド化が図られるのでは	長野
6次産業化産品を販売する際の、成分分析への支援を	長野		
市場外流通への対応として、直売所会員の増加を図る	長野		
個人販売農家での生産と販売・物流の機能分担ができる体制づくりを	北信		

基本方向		意見・提言	意見・提言者
I 次代へつなく信州農業	3 需要を創出するマーケティング	「おいしい信州ふード（風土）」を利用し、マーケットニーズを考慮し、産地としてどのような品目を取り入れるか	関係団体等
		農産物等の海外販売PRなどは方法や金銭的にも難しい。まずは、海外から来た人たちに食の体験をしてもらっては	関係団体等
		滞在交流型観光が各地に広まり、交流を契機とした農産物販売が進んでほしい	関係団体等
		ますます魚を調理できる調理人が少なくなり、生産のみでなく、加工製品にも注力が必要である	関係団体等
		信州サーモンの県内の売り上げが伸びないのは観光客の減少が一因ではないか	関係団体等
		農産物の輸出により儲かる農家が増えるようになってほしい	市町村
		リニア開通等を見据えた「観光農業」の展開が必要	市町村
		小回りのきくセミプロ農家（市民や兼業農家）により、直売所等への出荷が活発に行い、地産地消を進めるべき	関係団体等
		果樹産業で長野県の景観を維持、向上し、県外や外国から多くの人を訪れるようになってほしい	関係団体等
		地域での農産物の生産自体が落ちてきているので、輸出に回せる余裕がなくなっている。国内生産、国内消費にもっと地道に取り組んでいいのではないか	市町村
		長野県には良い農産物が多くあるので、他県と差別化できるマーケティングを	関係団体等
		山菜の付加価値を高めて販売するためには原材料の現地からの確保や、極端に高齢化が進む過疎地域での野菜等の生産振興の展開が課題	市町村
		衣類（綿、絹）や薬草に着目した農業を	関係団体等
体験型農業で観光とコラボし、ホテル旅館を誘致すべき	関係団体等		
標高を活かしたリレー栽培により、市場が品薄な時期に出荷が可能となるような、農地を創出（区画整理）を	市町村		

基本方向	意見・提言	地域
Ⅱ 消費者とつながる信州の「食」	地元有名宿泊施設で地元産農産物を使ってもらい、情報発信してもらおう取組の強化が必要	佐久
	地元の伝統料理を宿泊施設で食べてもらえるようにする取組が必要	佐久、北アルプス
	食への意識が希薄な親に対し、子どもへの食育を通じて意識醸成ができないか	佐久
	直売所におけるGAPの取組拡大等により品質管理の徹底を	上田
	直売所の後継者確保について検討すべき	上田
	家庭や教育現場における食育の更なる推進を。	上田、諏訪、上伊那、南信州
	学校給食への食材提供には、流通ルートの整備が必要	諏訪
	郷土食の意義や魅力を伝える「ソムリエ」を育成してはどうか	上伊那
	直売所と学校給食の組み合わせにより地消地産率の向上を図る	上伊那
	子どもに対して農業大切さや多面的機能を伝えていくことが重要	南信州、長野
	子どもだけではなく、親子を対象とした食育活動が必要	南信州、松本
	地域の伝統食を「遺産」として活用する取組を盛り込んでもらいたい	木曾
	この項目が新たに設定されたことは、消費者にとって良いこと	松本
	農作業や農産物加工体験など、農業に関心をもってもらおうための取組を	諏訪、松本
	修学旅行を対象とした農家民宿の取組は有用なの推進してもらいたい	北アルプス
	食改グループによる地元産農産物を使った調理実習は、地消地産の拡大に有効	北アルプス
	県産食材の啓発・宣伝や地消地産の拡大の手法について示してもらいたい	北信

基本方向	意見・提言	意見・提言者
II 消費者とつながる信州の「食」	輸入野菜に頼らず、安心して国内産野菜を食べたい	関係団体等
	地域の人が、地元産農産物を食べられることのありがたさを理解されるような時代に	関係団体等
	地域内で生産から加工、販売、観光、農業体験ができる総合的な生産団地が各地にでき、それぞれが特色ある生産を行えるようになってほしい	学生
	若者の果物消費量が劇的に増加してほしい	学生
	新しい発想や感覚を持った若者を応援する視点が大切	関係団体等
	地産地消、安全安心な食品で子ども達を育てる時代に	関係団体等
	食育の推進が重要	関係団体等
	田舎料理、伝統料理の伝承を行うべき	関係団体等
	中山間地は高齢化が進み、人口も減少が進んでいるので、高齢者や女性でも扱える作物や山菜などの指導をもっとしてほしい	関係団体等

基本方向	意見・提言	地域
Ⅲ 人と人がつながる信州の農村	繁閑期が入れ替わる農業と林業の間で、冬場の人材について連携できないか	佐久
	定年帰農者に対し、リタイア等により遊休化した機械・施設の情報提供が必要	佐久
	若手農業者の定着の面からも、子育て支援策が必要	佐久
	条件不利農地の改善や自然災害に強い産地作りが必要	上田、上伊那
	小規模なほ場整備や、山際の水路、農道等の整備が必要	上田
	直売所を地域コミュニティの場として位置付け機能アップを図る	上田
	外部からの移住者が地域に良い影響を与えているので、定着しやすくなる支援を	上田
	農機具レンタルや農地取得下限面積の緩和など農ある暮らしへの支援を	上田
	地域の農業・農村を地域全体で支えるという意識が涵養できる方策を示してもらいたい	上田
	鳥獣被害対策が重要	上伊那、南信州、松本、北アルプス
	中山間地域においても農地の貸借ができる仕組みを検討願いたい	諏訪
	生きがいとして農業に取り組む者の受け入れ体制を整えてもらいたい	諏訪
	集落営農の確立と継続に向けた方策が必要	上伊那
	太陽光発電施設の設置や開発との棲み分けを行い、優良農地を確保する	諏訪、上伊那
	日本型直接支払制度等による、農業者以外の者の農地保全活動への参加促進	上伊那
	企業参入の一形態として、耕作放棄地を所有してもらおうのはいかがでしょうか	上伊那
	地域において女性の力を更に発揮してもらえる取組を	上伊那
	I-Uターン者や定年帰農者が活躍できる場の提供	上伊那
	直売所や加工所を含め、「むらで売る」仕組み作り	上伊那
	6次産業化の推進	上伊那
	新規参入者が就農したくなるような、景観、農地を守っていかねばならない	南信州
	外部からの参入者を増やすために、地域の魅力の情報発信が必要	南信州
	広域的な視点を含めた観光と農業の連携推進が必要	諏訪、南信州
	地域を守り災害を防止する観点からも、中山間地域の農地を守る必要がある	松本
	農地中間管理機構を活用し、優良農地の集積と有効活用、荒廃農地の発生防止を	松本
	耕作放棄地の発生防止の観点からも米の適正生産が必要	松本
	大規模化が進むと排水路管理等共同活動に支障来すことが懸念される	松本
	農地の相続により土地改良区の賦課金徴収に支障を来している	松本
	土地改良法の改正を踏まえ、可能な箇所では基盤整備に取り組んでももらいたい	松本

基本方向	意見・提言	意見・提言者
Ⅲ 人と人がつながる信州の農村	老若男女の関係なく、多くの人が水遊びできる川へ	関係団体等
	土地改良施設や歴史的な疎水も、水路機能に加え付加価値を活かすよう	市町村
	水利施設の維持管理は、農家や非農家を問わず、活動組織の所在する地域の人たちのマンパワーと財政的支援が必要	市町村
	人々が川に親しみ、子供が遊び、釣り人がたくさん訪れる川になってほしい	関係団体等
	コンクリートで固められていない自然石の川になってほしい	関係団体等
	気象の大きな変動、自然災害等に韌（しなやか）に対応できる都市農村社会を	市町村
	美しい田園風景（耕作された農地管理された水路等）が維持されていて欲しい	市町村
	農業生産、農業施設維持管理活動への周辺の住民の協力と理解されるようになってほしい	市町村
	人が住み、川へ入り、釣りはもとより、河川の清掃や火災時の取水ができる自然に優しい思いやりのある河川環境を	関係団体等
	いざという時に助け合う地域、人間関係が大切にされる地域に	関係団体等
	他の地域から来る住民を温かく迎え入れる地域、そこに住みたいと思うような地域に	関係団体等
	それぞれの個性にあった生き方ができる、様々な地域や環境があつて良いと思う	関係団体等
	北アルプスに映える水田の風景の景観維持ができないと、農村として生き残ることは難しいのでは	関係団体等
	誰もが住みたいと思う魅力ある環境と住みやすい街がある長野県となるべき	市町村
	長野県独自の景観を残しつつ、若者に魅力ある働く場が多い街づくりを	市町村
	耕作放棄地で荒れたところがなく、いつでも農業ができるような景観が保たれるよう	関係団体等
	安曇野の田園風景、山、中山間地の農業を維持してほしい	関係団体等
	耕作面積が大きいので、機械化や省力化がさらに進むなどによる余裕のある農家経済生活の実現を	関係団体等
	H30以降の米生産が不安。米から園芸品目への転換が必要	関係団体等
	地域ごとに重要品目作って関係機関が協力して全力で推進すべき	関係団体等
	交通の不便さを活かし、旅感覚で長期に訪れてもらえるような取組の強化を	関係団体等
	大規模農家だけではなく、小規模農家が集まって地域で農地農業を守るような仕組みづくりを	市町村
	郷土愛が住んでいる人たち（農業者でない一般住民）にまで広がってほしい	関係団体等
	安曇野の風景（田園北アルプス）は他地域ともかぶる。楽しさ、面白さを提案したい	関係団体等
	海外労働者やワーキングホリデーの受入に対応できる環境づくりが必要	関係団体等
	10年後にはリニアが開通し、下伊那地域の目玉となる。農村の風景を守ることが、観光農業のさらなる発展につながるのでは	関係団体等

若い人たちが住み続ける、帰って来たくなる、県外から人が来る長野県となってほしい	関係団体等
県内に雇用の機会や選択肢があれば、若者が長野で住みたくなるのではないか	関係団体等
子どもからお年寄りまで1人1人が自由に生き活きと暮らせるようになってほしい	関係団体等
それぞれの地域が特色を持って輝ければ	関係団体等
人と人とのつながりがあり、心が豊かに	関係団体等
美しい景観や自然、豊かな里山の維持を	関係団体等
保育園や病院などの施設設備が整っていて住みやすく	関係団体等
ひとり親、一人暮らし老人、障がい者などが集まれる場所づくりを	関係団体等
子どもに負担をかけないことが重要	関係団体等
若い人たちが子育てしやすい環境を	関係団体等
農産物、自然、ため池など地域資源の活用を	関係団体等

